

令和8年度

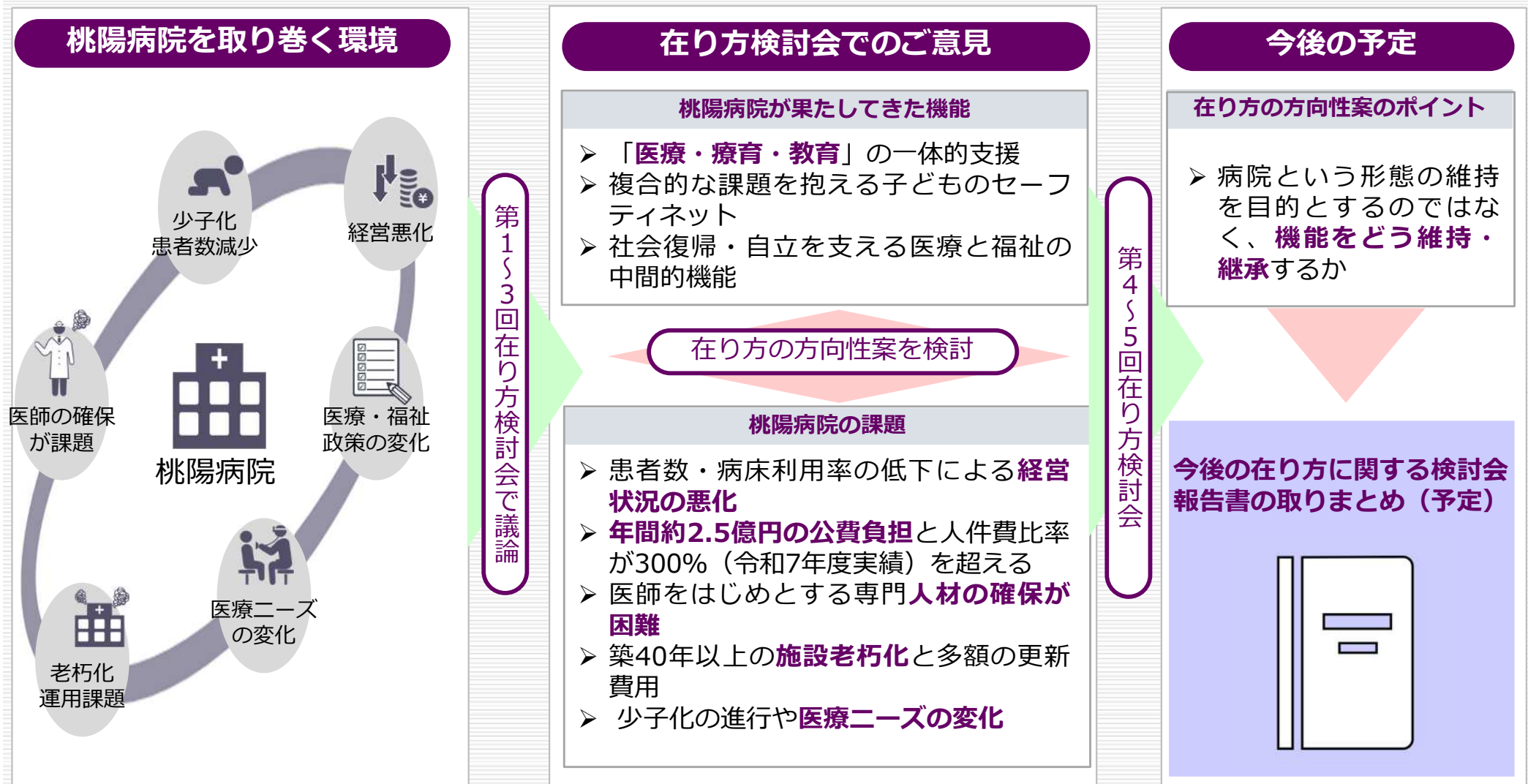
第4回 京都市桃陽病院の今後の在り方に関する検討会
本体編

令和8年8月18日（火）

1. 第1回から第3回検討会の議論の振り返り

(1) 検討の流れと今後の予定

- 第3回までの検討会では、桃陽病院の現状・課題と役割について議論を行った。
- その結果、病院という形態の維持を目的とするのではなく、**機能の維持・継承を基本的な方向性**とし、あわせて機能の継承等に向けた取組も含めて整理した報告書を取りまとめるべきとの意見が示された。



1. 第1回から第3回検討会の議論の振り返り

(2) A案及びB案に対する各ご意見

- 第3回検討会では、2案を例示して検討を行い、以下の方向性が示されました。

A案 「医療機関」として継承

- ◆ 従来の医療・療育・教育を一体的に提供する機能を維持し、**医療機関として継続**する。

【ご意見】

- ・ 桃陽病院は、発達障害や精神的課題、不登校等により支援を必要とする子どもに対し、医療・療育・教育を一体的に提供してきた実績があり、**その役割の継承は重要**である。
- ・ 他の医療機関や地域資源では対応が困難な子どもの**受け皿としての機能は代替が容易ではない**。
- ・ 子どもが安心して過ごせる環境や、**自己肯定感・社会性の回復を支援する取組**は高く評価できる。
- ・ 現在の利用者や家族の安心感、継続的な支援の観点からも、**可能な限り現在の役割を維持**することが望ましい。
- ・ 桃陽病院が長年培ってきた**専門性やノウハウを継承していくことが重要**である。

【A案及びB案の共通認識】

- ・ 桃陽病院が担ってきた**医療・療育・教育**の一体的支援及びセーフティネット機能は重要
- ・ 患者数の低下、慢性的な赤字構造、医師確保の困難、施設の老朽化等により、**現行の病院運営を維持することは困難**な状況にある
- ・ 桃陽病院が担ってきた機能を今後**どのような提供体制で維持・継承**していくかが主要な論点である
- ・ 現在の利用者に不利益が生じないことを前提としながら、**機能の維持・継承を図り、持続可能な支援体制への移行を進めることが重要**

「持続可能な支援体制」への機能再編 B案

- ◆ 「桃陽病院」としての役割を終了し、政策動向や地域ニーズに即した医療・療育・福祉機能を再編・集約し、切れ目のない**支援体制を構築**する。

【ご意見】

- ・ 入院患者数や病床利用率の低下、年間約2.5億円の赤字、施設の老朽化、人材確保の困難性等を踏まえると、**現行の病院運営を継続することは容易ではない**。
- ・ 必要なのは**病院という施設そのものではなく、桃陽病院が担ってきた機能**であり、それらを**持続可能な形で確保する視点が必要**である。
- ・ 他の医療機関、福祉施設、教育機関等との**役割分担や連携を含めて検討すべき**である。
- ・ 限られた財源や人材を踏まえ、**将来にわたり持続可能な支援体制を構築**する必要がある。
- ・ 仮に機能再編を行う場合も、**利用者や家族に不利益が生じないよう、十分な移行期間や支援体制を確保**すべきである。

在り方の方向性

桃陽病院が担ってきた機能の維持・継承を前提として、医療・療育・教育を一体とした持続可能な支援体制への移行を目指す方向性で報告書を取りまとめる

2. 検討会報告書案について

(1) 報告書案の骨子（構成）

- 報告書の目次構成及び主な記載内容は下表のとおりである。
- 報告書については、桃陽病院の沿革や現状、外部・内部環境等を整理するとともに、桃陽病院が担ってきた医療・療育・教育の一体的な役割を評価した上で、**今後の在り方の方向性及びその具体化に向けた考え方を示す構成**としている。
- また、**桃陽病院が担ってきた機能の評価**を踏まえ、**課題を整理**した上で、必要な機能を**今後どのように維持・継承していくか**という観点から検討を行い、その結果を取りまとめたものである。

構成		主な内容
第1章	はじめに	• 桃陽病院の今後の在り方に関する検討会の設置に至った背景及び検討の経過について整理する。
第2章	現状と課題	• 桃陽病院の施設概要、患者像、施設・設備の状況並びに外部環境及び内部環境の分析結果を整理するとともに、経営面、施設面及び運営面における現状と課題を示す。
第3章	桃陽病院が担ってきた機能の評価	• 桃陽病院がこれまで担ってきた医療・療育・教育を一体的に提供する機能や、社会復帰及び自立を支援する役割について整理し、その意義を評価する。
第4章	在り方の方向性の検討に当たっての整理	• 検討会での議論を踏まえ、今後の在り方を検討する上での視点、現状認識、課題及び基本的な考え方について整理する。
第5章	今後の在り方の方向性	• 桃陽病院を取り巻く現状と課題を踏まえ、今後の機能の在り方及び支援体制の方向性を示すとともに、具体化に向けた留意事項及び今後の対応について取りまとめる。
第6章	京都市桃陽病院の今後の在り方に関する検討会について	• 検討会の設置根拠、委員構成及び開催状況について整理する。

2. 検討会報告書案について

(2) 在り方の方向性の検討に当たっての整理について

- 第4章では、桃陽病院を取り巻く現状や課題を整理するとともに、今後の在り方を検討する上での基本的な考え方について記載している。

機能評価

- 桃陽病院は、**医療・療育・教育を一体的に提供する拠点**として重要な役割を果たしてきた

課題整理

- 患者数及び病床利用率の低下、慢性的な赤字構造、人材確保の困難、施設の老朽化等の課題により、**現行の運営を将来にわたり維持することは困難**
- 地域生活への移行を重視する福祉施策の方向性、少子化の進行及び医療ニーズの変化を踏まえ、**機能の在り方や提供体制の検討**が必要

方向性

- 病院という運営形態にとらわれず、**必要な機能をどのように維持・継承していくかという観点**から今後の在り方を整理

具体化

- 機能の維持・継承を前提として、機能の在り方、**留意事項及び今後の対応**を整理

病院という形態の維持ではなく、桃陽病院が担ってきた機能の維持・継承を中心にとりまとめ

2. 検討会報告書案について

(3) 今後の在り方の方向性

- ・ 桃陽病院が担ってきた機能の重要性と現状の課題を踏まえ、機能の維持・継承を前提とした持続可能な支援体制への移行が望ましいと整理した結果は以下のとおり。

基本的な方向性

- 桃陽病院が担ってきた支援機能は重要なものであるが、病院を取り巻く様々な課題を考慮すると、**現行の病院としての運営を継続することは困難**である。
- 医療・福祉・教育の各分野の役割を踏まえ、**支援体制全体の機能再編**を前提に検討を進める必要がある。
- 既存の資源も活用しつつ、各分野の連携及び役割分担の下で、**効果的・効率的で持続可能な支援体制**を再構築することも重要である。

機能の在り方

【入院機能】

- 受け皿となる医療機関・福祉施設の確保
- 支援ニーズに応じた入所・入院体制の整備

【療育機能】

- 長期入院を中心としたものから地域や家庭を中心とした療養支援への移行
- 発達診断機能、LD（学習障害）評価、専門相談体制等の充実

【外来機能】

- 既存の支援資源（児童福祉センターや地域の医療機関等）の活用
- 外来機能の継承と診療体制の確保

【教育連携】

- 子どもの状況等に応じた学習機会の確保
- 教育・医療・福祉の連携による切れ目のない支援体制の構築

留意事項

(1) 子どもの最善の利益の確保

- 現在及び将来の利用者を含め、子どもの最善の利益を最優先に検討を進める。
- 複合的な課題を抱える子どもや家庭に対し、切れ目のない支援体制を確保する。

(3) 医療・福祉・教育が連携した支援体制の構築

- 桃陽病院が培ってきた医療・福祉・教育の一体的な支援機能を継承する。
- 教育委員会や京都府、医療・福祉関係機関等との連携を強化し、支援体制を構築する。

(5) 資源（財源・人材）の有効活用

- 限られた財源及び専門人材を有効活用し、持続可能な支援体制を構築する。
- 必要な受け皿整備を進めるとともに、職員の知識・経験を活かした人材活用を図る。

(2) 受け皿整備及び移行期間の確保

- 利用者や家族への影響に十分配慮しながら、機能再編を段階的に進める。
- 十分な受け皿を確保し、関係機関との調整及び丁寧な引継ぎの下、円滑な移行を図る。

(4) 個々の子どもの状況に応じた支援の継続

- 子ども一人ひとりの状況や支援ニーズに応じた支援を継続する。
- 疾病、家庭環境、教育上の課題等を踏まえ、本人・家族の意向を尊重した支援を行う。

目指す姿（桃陽病院の在り方）

桃陽病院が担ってきた機能を継承・充実しながら、子どもや家族が抱える課題に応じた必要な支援を切れ目なく提供できる持続可能な支援体制を構築する。